

こぎこ 小 木 の 子



富士第二小学校
学校だより
令和4年9月22日

前期が終わります

9月に入っても日中はまだまだ暑く、体育の時間や昼休みには熱中症への対策をしながら子どもたちは活動しています。それでも朝夕には、空気の冷たさを感じるようになりました。校内の落葉樹の代表である桜も、夏休みが終わった頃から徐々に葉を落とし始めました。徐々にではありますが季節は確実に夏から秋に移り変わってきています。

その桜の花が咲いていた頃に始まった令和4年度の前期も、あと2週間ほどで終わります。新しい学年になり意気揚々と臨んできたこの半年間、お家の方から見て、子どもたちの成長の様子はいかがだったでしょうか。9月30日からの保護者面談では、学校での様子を担任からお伝えします。それらを踏まえながら、前期が終わった時点で学校評価アンケートを実施しますので、ご意見やご感想をいただきたいと思ひます。



さて、話は変わりますが、先日の体育館体育で、夢中になって挑戦する素敵な子どもの姿を見ることができたので紹介します。

その学級は跳び箱運動を行っていました。体育館内に複数の違う段数の跳び箱を用意して、それぞれが設定した課題に挑戦しているようでした。出入口すぐの場所では、5人くらいの子どもが、少ない段数で開脚跳びに取り組んでいました。何度も繰り返し挑戦しますがなかなか跳び越すことができません。お尻が跳び箱の上に乗って止まってしまう。でも、何度も繰り返しているうちに2人の子どもはコツをつかんで跳び越せるようになり、更に多い段数に挑戦するためにこの場から離れました。



残った3人には、担任の提案で踏切板の代わりに台を用い、そこから試すことにしました。重心の位置を高くすることで跳び越し易くすることがねらいです。子どもたちは早速挑戦します。すると先ほどよりも跳び越す形に近くできるようになりました。その感触を実感したのか子どもの顔には「できるかもしれない。」という期待の表情が見えました。そして何度も熱心に挑戦します。そんな様子を見て私も夢中になって励ましの声を掛けました。アドバイスにも耳を傾け、何度も繰り返して跳んでいるうちに、お尻を跳び箱の角に当てずに前のマットに着地できるようになりました。この感覚をつかんでしまえばもう大丈夫です。台を踏切板に戻して挑戦です。3人とも見事に跳び越せるようになっていました。最後にできるようになった子はいうれしそうな笑顔を私に見せて、より多い段数の跳び箱に向かって行きました。

子どもたちが夢中になって取り組んだ経験、その過程で得たものは、きっと他の場面でも生かさせることでしょう。

*本校ではコミュニティスクールとして「CSボランティア（ふれあい協力員）登録制度」を実施しています。ぜひ登録をして学校教育活動にご協力ください。
*ボランティア以外にもSSS（スクール・サポート・スタッフ）や学び方サポーター等もあります。興味のある方は教頭までお問い合わせください。